

15-46 利子率

「利子と本来の利潤とへの利潤の分割が商品の市場価格とまったく同様に需要供給によって、つまり競争によって規制されるかぎりでも、資本は商品として現れる。……利子の場合には競争が法則からの偏差を規定するのではなく、競争によって強制される法則よりほかには分割の法則は存在しないのである。なぜならば、なお詳しく見るであろうように、利子率の「自然的」な率というものは存在しないからである。利子率の自然的な率というのは、むしろ、自由な競争によって確定された率のことである。……

一国で支配的な利子の平均率——絶えず変動する市場率とは区別されたものとしての——は、どんな法則によっても全然規定することのできないものである。」（大月版『資本論』④ P445F7-446F4、453F5-8）

なお、『資本論』第3巻第5編第34章〈大月『資本論』⑤ P703〜〉は、利子率は需要と供給によって決まることを述べている。